

## 「94年度、柳原病院現場の歩み」

太田 由紀子 (労協センター事業団東京東部第一事業所)

94年の6月頃から、東京東部第一事業所（特に柳原病院現場、他は一人現場）の改革ということで、配属になって1年が経ちました。私が、担当になった柳原病院現場は、立ち上がって6年が経とうとしていました。そこで働いている組合員は、3業種（電話交換・営繕・清掃）で8人でした。その中で、特に改革が迫られていた清掃業務については、人の入れ代わりが激しかったため、一番古い人で2年目を迎える状態でした。初めに受けた印象は、労働者協同組合そのもの、働く意味を理解していない感じを受けました。

7月中旬より本格的に事業所の改革に踏み出しました。その当時の現場の状況は次のような状態だったといえます。

- ①良い仕事が低下している。その事から、病院職員が事業団に対して不信を持ち始めている。
- ②現場の組合員同士がの不団結である。
- ③高齢の組合員の就労問題。
- ④経営の悪化。人工のふくらみ、契約金額、賃金改訂が3年間実施されていない。

この様な状態を改革していくためにまず団会議で、今後柳原病院現場が刷新すべき課題として、次の4つをあげてそれを基本に取り組んでいくことを提起しました。

- ①良い仕事の改革を全ての中心にしていく。
- ②組合員が経営の主体となる取り組みを強化する。
- ③どんな時もみんな話合ってすすめていく。
- ④自分たちの取り組みを病院側に伝え、信頼関係を深めていく。

上述した4つの課題について、柳原病院現場の改革に踏み出しました。その改革をしていく中で、私は事務局員として次の事をいつも考えながら行動提起をし、現場の組合員とかがかわってきました。

- ①組合員自身が、本当に納得して動かないと決して良い結果は出ない。その為に、納得できるような話し合い、取り組みを実践していく。
- ②現場で働く組合員が頑張れる、元気になれる場や取り組みを提起していく。自分たちで取り組んでいくことの大切さ、楽しさを体で感じ取る機会をつくる。
- ③取り組んだことが、形として返ってくるような仕組みをつくっていく。
- ④誰もが分かる、見える仕組みをつくっていく。（仕事の内容、事業所の運営等）

このような、課題や考えを持ちながら具体的にどのようにして取り組んだかを報告したいと思います。

改革は、事業所を次の3つの面からにて取り組んできました。

### ①仕事の改革

- ・特に清掃業務に力を入れ、毎週の団会議で「良い仕事」について提起、話し合いを積み重ねていく。
- ・全員が業務全体を把握していくために契約書・仕様書の確認作業、日報の作成、ローテーションを実施していく。
- ・仕事の現状の評価をするため、病院職員に対してアンケートをとり、その結果にもとづいて改善方針を立て、実行していく。
- ・毎月の定期協議で1カ月ごとの方針・到達点



を病院側に報告していくことによって、信頼関係を築いていく。

### ②経営の改革

- ・仕事の改革上、若手の常勤者を配置させるため、常勤で働く高齢の組合員が半日勤務になる体制をとり、人件費をおさえる。
- ・毎月の経営状況を全員が把握していくため、分担して数字を出していく。
- ・計画通りの勤務、材料費の管理の実施。
- ・安定した経営を持続していく。自分たちの力で賃金の改訂等の実現をしていき、労働条件を向上していく。

### ③組織活動

- ・週1回の団会議を定着して開いていく。
- ・事業所運営（新聞の配達、原価率の計算等）を分担して取り組んでいく、それらを通して皆で協力して取り組むことの楽しさを感じていく。
- ・取り組んできたことを1カ月毎に振り返り、到達できた点を確認し次月の方針、行動提起をしていく。それらを通して自分たちで取り組んでいくことの意味を実感していく。

これらの改革を1年間取り組んできた今、私が初めて柳原病院現場を訪れた時の雰囲気とは違ってきていると確実に言えると思います。この現場は、何か1つだけ良くなったというわけではなく、全体の水準が前より向上していると思います。しかし、その一方で、今でも課題を抱えている現状です。昨年、地道に取り組んできた事をもう一度振り返り、新たな改革方針を出していかなくてはならないと考えています。

私は昨年1年間、柳原病院現場の改革や組合員を通して多くのことを学ぶことができました。それぞれの改革は、全部につながっていること。人が主体的になって動いたときに発揮した力の大きさ。私自身、昨年を振り返ってみて現場の組合員以上に成長できたと思います。労働者協同組合で働きだして2年目ということで手さぐりの状態ですが、東京の他の事業所を始め、全国の事業所や

仲間から東京東部第一事業所で欠けているところを謙虚に学んでいきたいと思っています。今、柳原病院現場は全組合員経営の第一歩を踏み出したところ。95年度は、さらに全組合員経営を発展させていくことを目標に取り組んでいきたいと思っています。

■東京事業本部学習会は、センター事業団東京事業本部所長会議の中で7月28日にひらかれたました。当日報告された内容を、ご本人にまとめていただきました。

この学習会は「よい仕事と全組合員経営、を考える一環としてもたれたものです。